

特集 ～みなさんの地域で支え合い・助け合いの仕組みづくりが進んでいます～

ささえ愛おたわら助け合い事業(大田原市生活支援体制整備事業)



第1層協議体会議の様子

■ささえ愛おたわら助け合い事業(生活支援体制整備事業)とは

～キーワードは生活支援と社会参加～

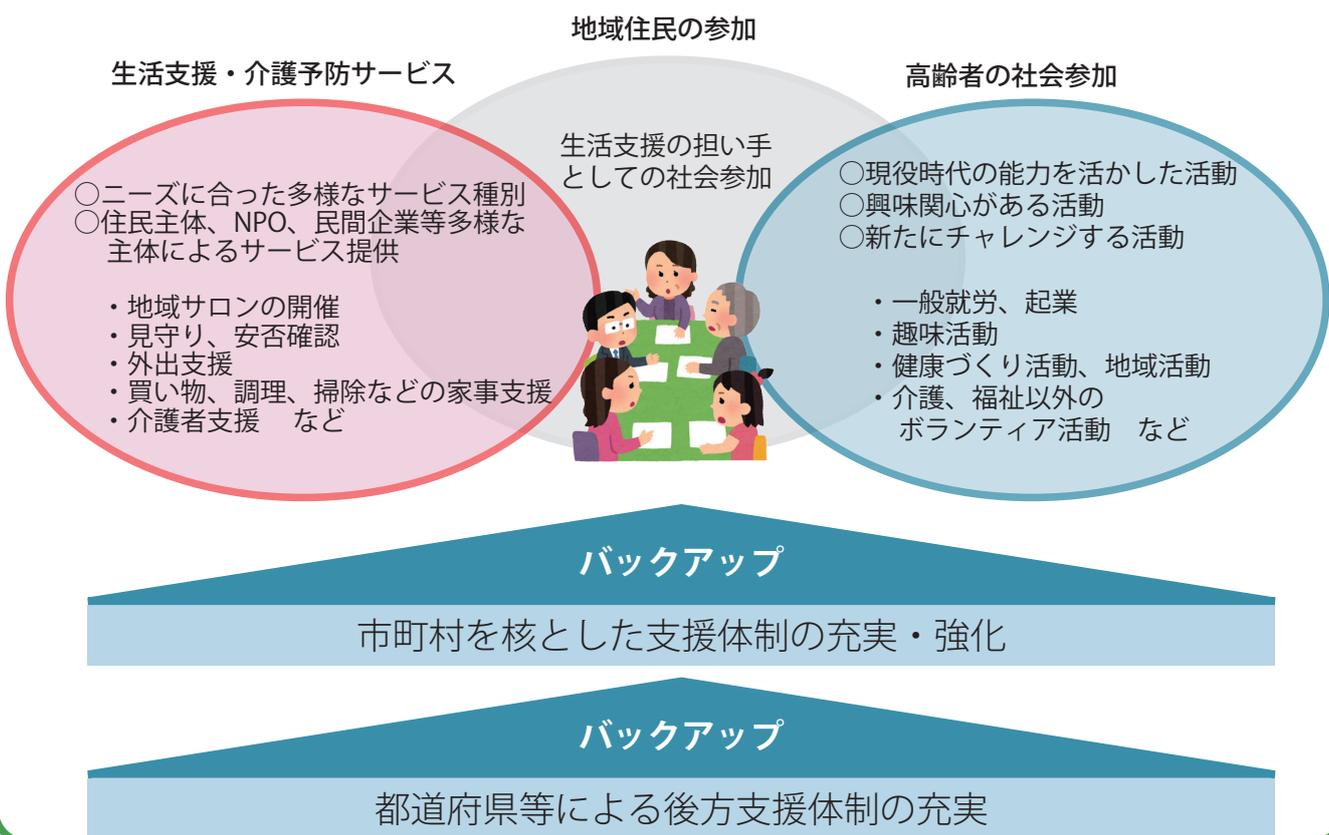
単身や夫婦のみの高齢者世帯、認知症高齢者などの支援を必要とする高齢者が増加するなか、生活支援の必要性が増大しています。

ボランティア、NPO法人、民間企業、協同組合、社会福祉法人などのいろいろな主体が地域の中で生活支援サービスを提供することが必要です。

一方、高齢者自身も地域などで役割を持ち社会参加をすることが、生きがいや介護予防につながります。

市は、地域の中で多様な主体が多様なサービスを提供できる体制を整えることで、高齢者の安心生活と活躍の場の提供ができるような地域づくりを進めます。

生活支援・介護予防サービスの充実と高齢者の社会参加



■本市の取組状況

～第1層と第2層に、**生活支援コーディネーター**と**協議体**が設置されています。～

「生活支援コーディネーター（SC）」とは、色々な団体や地域の間を調整したり活動を推進したりする「調整・つなぎ役」です。「協議体」とは、多様な団体や人が参画し、情報共有・連携強化を行う「話し合いの場」のことです。

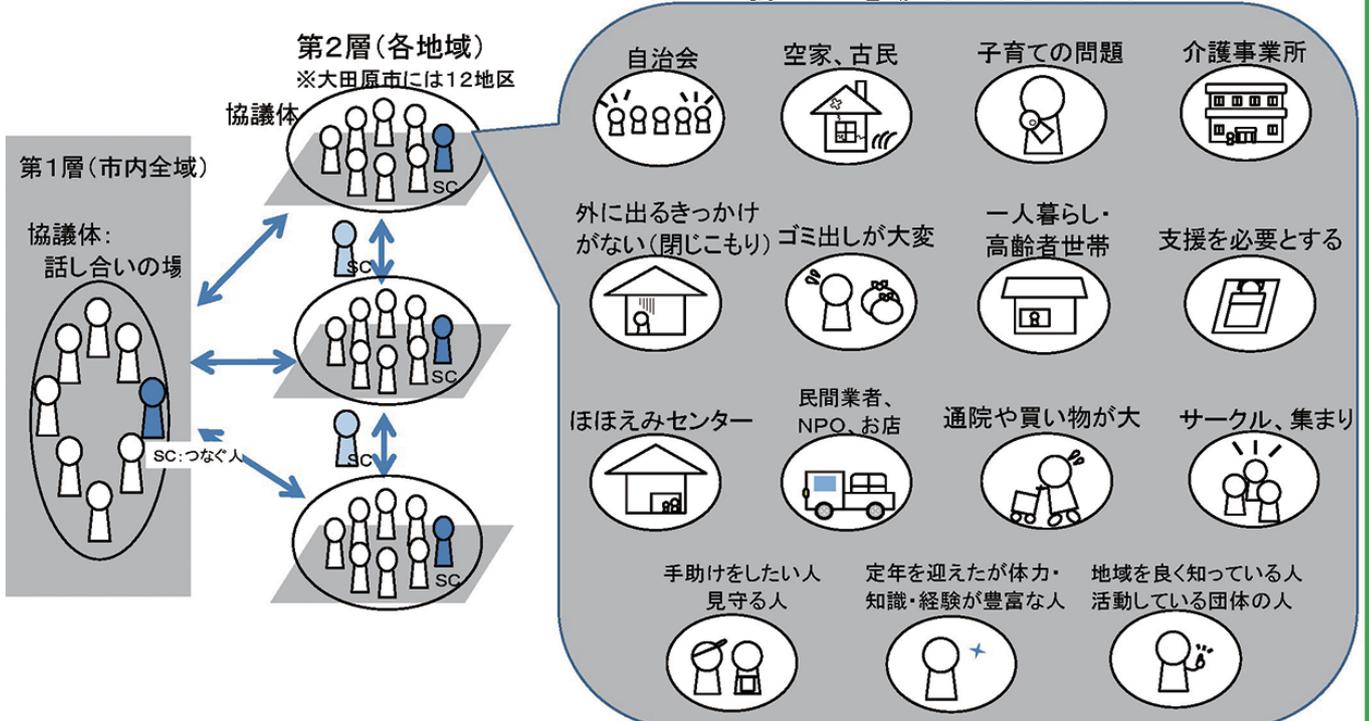
現在大田原市では、市全体（第1層）で1つ、12の日常生活圏域（基本的に中学校区を単位とする区域）（第2層）に1つずつ、合計13の協議体が設置されています。また、それぞれに生活支援コーディネーター（SC）も配置されており、各地区の現状や困りごと、資源の情報収集や課題の洗い出しが行われています。

ささえ愛おおたわら助け合い事業

大田原市生活支援体制整備事業

～住み慣れた場所で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けられる地域づくりを～

私たちの地域はどんなところかな？



どんな困りごとがあるんだろう。どんな資源があるんだろう。

みなさんのふるさとして「ささえ愛大田原助け合い事業」を進めましょう。

■第1層(市域)協議体の役割

第2層協議体で話し合われたことや市全体で考えていくべきことを整理・検証し、解決策を考えたり、市に提言したりします。

・委員を構成する団体など

第1層SC、地域包括支援センター、大田原市社会福祉協議会、市内事業所、シルバー人材センター、大田原市ケアマネジャー協議会、国際医療福祉大学、見守り組織、民生委員、高齢者ほほえみセンター、第2層SC、自治公民館、地区社会福祉協議会、地域の居場所など活動実践者

※話し合いの進み方や内容に応じて増員あり

・第1層協議体の目指す地域像(協議体の目指す姿)

「お互いの顔が見える地域づくりをめざして
～住民が主体の共生社会を作ろう～」



第1層協議体(ささえ愛分科会)による市内資源見学の様子

■第2層(各日常生活圏域)協議体の役割

同じ大田原市のなかでも、街なかと中山間地域ではそれぞれ環境や困りごとが違います。各地区が、現状や課題を明確にし、地域の中での助け合いや社会参加の仕組みを作っていくことは、いつまでも住み慣れた場所で自分らしく暮らしていくために必要です。

皆さんのお住まいの地区それぞれに第2層協議体が設置されており、地域の主体性・自主性を発揮し、具体的な活動を展開するため、課題や資源の情報収集や解決策の検討を行っています。

第2層協議体で話し合われている事例



第2層協議体(大田原東部地区)の資源調査会の様子

たくさんの商品を見てさわって買い物をしたい。一人暮らしの高齢者をさそって買い物バスツアーをやってみよう

お寺やカラオケ教室の空きスペースを地域のいいことに使ってほしいと申し出があった。だれもが来たいときに来られる居場所にしてみたら？

ボランティアで運転してくれる人が地域にいるので、歩くのが大変な方の家の前まで迎えにいて、買い物へお連れできるかな。

女性の力をかりず、年輩の男性だけ集まって、おつまみ・おかずを作って飲み会をやろう。もちろん後片付けも自分たちで。

これからは「支え合いの地域づくり」が大切だから、地域にチラシを配布して関心をもってもらおう。

もっといろいろな世代が交流する場所や方法はないかしら

■「助け合いの仕組みづくり」は「地域づくり」

本市は「住み慣れた地域の中で いつまでもいきいきと 安心して暮らせるまち」を目指しています。高齢化の進展も抱える問題も、市町村や地域によって大きな違いがあります。いつまでも安心して暮らせるまちは、地域特性に応じて作り上げていく必要があります。

最後まで住み続けられる豊かな地域社会を作っていきます。